

かんすけじぞう
勘助地蔵の由来

江戸時代、徳川吉宗將軍の頃大飢饉あり。西日本一帯に「ウンカ」の被害甚だしく不作、餓死者続出。当時、三田に勘助という人あり。世状を憂いて義賊となり衣食に苦しむ農民に金品を分け与えた。機敏な動作と俊足であること評判となり後世伝えられているが、晩年足腰の病に冒され歩行不可能となり床に伏す日が続いたが、就寝中響きわたる地蔵の声あり「われは今裏山の土中に埋もれしままの地蔵なり。直ちに掘り起こし祀れば汝の病を直さん」と夢告あり。勘助、人を介し裏山をたずね小野原地蔵谷にあつた地蔵を発掘、盛大な法要を営み供養すると、たちまち足腰の病が癒える。勘助大いに喜び田楽をつくり奉納し地元の人にもふるまう。その後勘助は各地の寺社を参詣し浄財を喜捨し余生を幸せにおくつた。その後この地蔵は明治末期頃迄地元の人々に「足腰の病を除いていただける地蔵様、疣（いぼ）をとっていただける地蔵様」として大いに信仰され縁日の二十四日には長蛇の列が続いたという。昭和になり和田寺に移し現在に至る。

創建 一七四七年 延享四年七月

再建 一八六〇年 安政七年二月

施主 丹後 福山恵照 下小野原 庄屋 弥左卫門

大左卫門

大工 伊 助

現在地

再建 一九三八年 昭和十三年 住職 元 照代

施主 藤田伊助 大工 藤田菊蔵

再建 一九八二年 昭和五十七年四月八日

住職 隆 照代

大工 藤本四郎